

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400084		
法人名	医療法人 原会		
事業所名	グループホーム 銘仙の家		
所在地	群馬県伊勢崎市平和町19-10		
自己評価作成日	平成23年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム銘仙の家理念(「みんなが仲良く笑いの絶えない家」「地域・家族・人が集まる家」「その人の持つ、個性が活かせる家」)をもとに、入居者の尊厳の保持・自立支援・家族とのつながり・地域とのつながり、スタッフ同士の連携を大切にして日々の生活を共に歩んでいます。各スタッフは、入居者一人ひとりの個性・特徴をつかみ、一人ひとりがその人らしくいられることに主眼を置きながら共に生活を送っています。また、入居者家族や地域社会にとってホームが開かれた存在であるためにも積極的にその中に入ることを心掛けています。つまりはかかわる人みんながホームのことを協同で考えていくことを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム以外にもデイサービスなど他に4つのサービスが集合している建物の1階にあり、玄関を出入りする多くの人の様子がいつでも見渡せるため、地域との関わりが継続していることを感じられるホームである。地域のボランティアやデイサービス利用者との交流、通りの向かいにある高校からは授業の一環として月に1度車椅子の修理などに来訪してもらっており、開かれたホーム運営が定着している。行事も利用者と一緒に企画し家族や地域にも協力を働きかけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン時より地域・個性・家族を意識したホーム理念をスタッフみんなで話し合っ決めて、明るい家作りを目指している。	開設当初、職員で作り上げた理念であり、毎月発行している新聞のトップに掲載し地域に理解してもらうとともに、職員の業務のふりかえりとして意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度は、地域の方に声を掛けていただき作品展に参加し地域住民と交流が持てた。又、地域住民の一人が書道の先生として定期的な来所があり、外食先などでも顔なじみの関係が出来ている。	区長や地域関係者からの働きかけで祭りや作品展に参加したり、外出先の情報なども教えてもらっている。地域住民が書道のボランティアに来てくれたり、車いすの修理や清掃活動をしてくれる高校生も月に1度来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」については、主に運営推進会議の時間を活用して話し合ったりして理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内でのイベントや入居者状況、事故・苦情など多岐に渡る報告をさせて頂き、地域の方や行政の方、ご家族から意見・助言を仰ぎ、サービスの提供に活かしている。	年に6回行政・地域関係者、家族も参加して運営推進会議を開催している。行事のアドバイスやホームへの質問・意見交換が行われており、地域に開かれた場にしていくうえで欠かせない会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にその都度参加していただき、疑問や不安な事象はその場で聞いたり、アドバイスなども求めることができる。	行政とは細かな情報も教えてもらえる関係に努めている。会議には関係部所から交替で参加してもらっているが、今までの流れをつかんだうえでの参加のため、スムーズな関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」については、施設内研修を年1回実施。外部研修にも参加。グループホーム入口については、自動的に電気錠にて管理されているが希望時は開錠し、出入りは付添いのもと自由に外出している。	玄関は5つの事業所が合同で利用しており自由に入出りができるが、エントランスからグループホームに入るドアは開設当初からの法人の方針で電気錠で管理されている。散歩の時や食事をとりに行く時など開錠している時間は増えてはいる。	従来の方針に対して、自由な出入りの意義を振り返り、見守りの視点や家族への説明などホームとしての意見を検討し、開錠できる時間帯をさらに増やしていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」については、施設内研修を年1回実施。外部研修にも参加。又、時事ニュースなどの虐待事例があれば、内容を伝えていくようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて「権利擁護」について学ぶ機会を設けている。まだ活用事例がないがもし入居者並びに家族から相談等があった時は円滑に対応できるように学ぶ機会を継続していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は本人並びに家族に時間を取っていただき細やかに説明している。特に料金・リスクマネジメント・重度化・看取りについては、しっかりと順を追って説明を行い同意を得ることを心掛けている。また、いつでも質問・不安等を申し出ただけで		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全家族に毎回運営推進会議の参加を依頼している。また、年1回家族会を開催し家族同士が交流を持てる機会を設けている。ケアに関する事項は、家族カンファレンスを個別に定期的に行いケアプランの説明を行っている。そしてその場は入居者と家族の	介護計画作成時におこなう家族とのカンファレンスや運営推進会議、年に1度の家族会やアンケートを通して、家族や利用者の意見を取り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月GH会議（職員会議）に出席し、各スタッフからの意見や提案を聞ける機会としている。また、個人目標面談の場を活用して率直な声を聞くようにしている。	毎月開く会議の中で意見を提案してもらっている。職員間の話し合いをもとに行事も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加を奨励しており、各種研修会への参加を積極的に後押ししている。また、法人が幹部会議を築き、そこでは法人内各事業所からの声を聞いてくれる場となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の積極的奨励、また、入職者が不安なく働けるようにOJTの実施、人事考課面談の活用など、スタッフ個々の情操面・技術面双方の成長に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加奨励してくれており、それにより他ホームスタッフと出会える機会となっている。また、同法人内の他グループホームとはいつでも意見交換や相談ができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、アセスメント段階にて、本人様に直接初期面接を実施。そして不安・要望などを聞きプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にホーム内対応を説明しながら、ご家族様の悩みや心配事などを伺い、可能な限り要望もプランに取り入れ実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の希望・不安などを十分考慮して、そこからホーム内のサービスだけでなく、利用できるサービス、社会資源の説明を行い、利用の際には仲介に入って支援対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが何かをする時は、スタッフがその場で行ってしまうのではなく、必ず入居者に声を掛けて、洗濯、寝具交換、食事準備・片付け、掃除などを共に行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に関することは必ず家族報告を行い、ご家族の意向・考えも確認している。どの入居者も面会が多くあり、随時近況報告が行える環境が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつも訪れてくださる友人も交えレクリエーションを行うこともある。来所される方を温かく迎え入れるような雰囲気作りを心掛けている。	友人知人の来訪も多い。家族には面会の他、外出・外泊の協力もお願いし支援してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中にスタッフも積極的に関わっていくことで入居者の仲介となるよう努めている。仲の良い利用者の関係が出来つつあり、その関係性を大事にして見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、ご家族には当ホームでの生活状況やADL状態・介護状況、次の行き先にはそれ以外にもその方が生きてきた生活歴など細かくお伝えし、ご本人の生活環境が変わったとしてもストレスや不安感が軽減できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の意向や思いを伺い出来るだけ希望に添えるよう努めている。もし希望に添えない事案が出た時は、ご本人にしっかりと説明を行い理解を得られるようコミュニケーションを大切にしている。	丁寧な言葉遣いでその都度本人の意向を確認している様子うかがえた。職員は担当制を組んでおり、それぞれの意向を把握するようにしている。	安全な生活を提供することはもちろんであるが、利用者のニーズの実現と『ここが生活の場』であるという認識が安定した生活につながることを再度確認し合ってみてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様面会時に本人が使用していたものや好まれていたことを教えていただいたりしてホームでの生活に取り入れている。それらが昔のことを思い出したり、教えてくれたりとその方の生活歴を知ることにもなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を活用することによって現状の把握に努めている。又、スタッフ間の申し送り・カンファレンス、気付きなどによって得られる情報も活用して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のグループホームスタッフ会議を活用して、各入居者の現状を話し合い、プランの見直し・評価・変更・確認などを話し合っている。又、家族との面談も定期と必要時に行い、入居者の現状に即した介護計画を作成している。	家族とカンファレンスを行い3カ月ごとに計画を見直している。モニタリングは毎月チェック表をもとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での出来事や言行動に細かく注意を払い、それらを個人記録に記入しスタッフ間の情報共有のものとしている。そしてそれらは、ケアの統一性やケアプランの見直しの材料にもなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下、認知症の進行に対応出来るよう内部・外部の研修会の参加で知識・技術を学んでいる。又、同建物内の他事業所スタッフとの交流も大切にしておりそこから色々な参考意見を受け活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向を伺い近隣のスーパーに買い物に行ったり、バリアフリーで安全に行動できる所に外食・外出に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望から、隔週で往診を受けている。かかりつけ医はご本人様・ご家族様の希望となっている。受診は家族の同行やスタッフが同行して対応している。	本人・家族が希望しているかかりつけ医に受診してもらっている。かかりつけ医以外の病気はホームで付き添い受診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、看護職員にその日の入居者の状態を報告・連絡・相談を行ない、そこから指示を受け対応している。身体面・精神面の変化に気付いた際は必ず看護師に報告し連携を大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、安心して治療を受けられるように医療機関との連携を密にして情報の共有をはかっていく。併せて家族との連携も大事にしてこまめに連絡を取り合い、退院後も安心してホームでの生活に戻れるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談時、契約時に方針についての詳細な説明を行い、内容の理解をはかることを大切にしている。再度説明が必要な場合は随時再説明を行っている。ご本人・ご家族・かかりつけ医・ホーム間の連携のもと取り組んでいくことを伝えている。	重度化や終末期に向けた方針は、入所時に説明しているが、必要に応じ随時家族をはじめ主治医・ホームで話し合いを行っている。看取りも行う方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて「急変時の対応」について学んでいる。日々の生活の中でも不安や不明なことは随時看護師に聞くことができる環境となっており、そこで実践力を身に付けることができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防者立会いのもと消防訓練を年2回(それぞれ昼、夜の時間帯を想定して実施)を行っている。又、施設内研修でも災害リスクについて学んでいる。運営推進会議では、非常事態についての議題があがることもあり、ホーム・地域社会の双方が学ぶ機会になっている	この1年では昼間を想定した訓練を2回、消防署の指導を受けながら行った。今秋には夜間を想定した訓練を計画している。	地震の影響で災害対策にも苦慮されたことと思われる。地域の協力体制づくりや日頃からの自主訓練の導入、物品の備蓄についても検討をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、日常のケアの一つ、トイレ誘導時などは他の入居者に気付かれないよう声掛けするなど入居者の羞恥心に配慮するなどプライバシーを守る言葉遣いや声掛けを行っている。	それぞれの人格を大事に、丁寧な声かけと確認がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの思い込み・考えで入居者のことを判断してしまうのではなく、入居者の仕草や行動を良く観察して希望や思いを感じ取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、入居者個人がその人らしい生活ができるようにスタッフは入居者のリズムに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものなどは入居者に選んで着てもらっている。それが難しい時はスタッフが一緒になり季節感に合ったものを選んでいく。毎月希望があれば理美容対応も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日替わりの給食係に味噌汁をよそるお手伝いをしていただいている。食事の際にはスタッフも一緒にコミュニケーションを取りながら食事をし、楽しい食事を心掛けている。定期的に外食にも出掛けている。	4事業所の食事は合同で作られており、利用者が職員と一緒に厨房まで取りに行ったり下げに行ったりしている。職員も同じテーブルで食事をしており、カロリー不足と思われる利用者には栄養課に相談し補助飲料などを出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、常に記録しており、少ない場合などはスタッフ間で話し合いを持ち、看護師やホーム内の栄養スタッフに相談し、時によっては栄養補助食品にて対応したりするなど、一人ひとりの状態に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛けを行っている。自己にて行えない方は、スタッフが見守り介助しながら行っている。無理強いせず入居者のペースに合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、必要に応じて声掛け、トイレ誘導・介助を行っている。訴えが難しい方は表情や行動に注意を払いさりげなく誘導している。	排泄チェック表をもとに必要なに応じて様子を見ながら誘導している。自立されている利用者で独自にチェックしている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より散歩や体操を行ったり、水分摂取量を確認の上、水分の促しを行っている。日々の食事にも乳製品や食物繊維が含まれた献立となっており、自然排便ができるよう支援しているが本人の希望や必要に応じて医師・看護師の指示のもと下剤を内服され基本的に週3回の入浴だが、毎朝希望を確認している。体調不良の場合は、看護師に相談の上、シャワー浴や清拭などで対応している。入浴表はあるが順番等はその日の希望に合わせて他の方とも相談して変更などしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表では週3回、誰もが入浴してもらうようにできているが、希望者は毎日でも入浴できるよう支援している。ほとんどの利用者は入浴表を目安にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間、寝具類、室温等は本人の希望に合わせて調節し、巡視時に確認している。睡眠状態の把握に努め申し送りを徹底している。又、本人の希望に合わせて昼寝などの休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルにはさみ、把握できるようにしている。ケースへの配薬時及び服薬時には、氏名・内服時間・薬の種類・数を確認しながら行っている。又、変更がある場合は情報ファイルへの記載、申し送り、状態変化の確認、看護師への報告を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの能力に合わせて洗濯・掃除・寝具交換・食事の準備・食器洗い・花の世話などを行って頂いている。又、貼り絵や広告を使用したゴミ箱作りなどがいつでも好きな時に行えるようにわかりやすい場所に道具などを置いたりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣への散歩を行っている。又、月2回の買い物や2ヶ月に一度車を使用して外食や季節に合わせた花見、ドライブを行っている。地域の作品展やお祭りなどへも希望に応じて出掛けている。	外出や外食で出かけるほかに、散歩や館内のゴミ捨て・厨房への行き帰りなどでホームから出る機会を多く持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者でお金を持っていたいと希望がある場合は、ご家族と相談し了承の上でお金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人へ電話の希望があれば応じて電話をかけてもらっている。又、手紙は本人に渡し返事を書かれた時は近隣のポストと一緒に出しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるフロアーにプランターを置いたり、テーブルには季節の花を置いたり、掲示板にはみんなが作った作品などを貼り出してみんなで共有して楽しめる環境作りに努めている。	共有空間は整理整頓がなされ清潔である。全面ガラス戸を通し、玄関に訪れる人を見ることができる。外の様子も見聞できる環境であるが、にぎやか過ぎずゆったり過ごしている様子がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフは仲の良い入居者同士の関係を大切にしたいコミュニティ作りを重んじ、一方で居室の方で自分の時間を大切にしたいと感じている時はそれを尊重して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の希望・要望に合わせて家具などの配置を行い、本人が納得でき安心して過ごせる居室作りを行っている。	テレビや籐のタンスなどそれぞれが希望する家具を持ち込み生活している。きれいに整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーは安全に過ごせるように入居者の動線に合わせてテーブルやイスを配置したり、居室内も同様に入居者一人ひとりの視点に合わせた環境作りを行っている。		